

平成 27 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 1 回学校協議会議事録

日時 平成 27 年 6 月 19 日（金）

15:30～17:00 協議

場所 茨木工科高校 会議室

出席者

委員長 委員 3 名

校長 教頭 事務部長 首席 2 名 分掌長 3 名 系長 3 名 新規採用 4 名

協議

1. 開会挨拶（校長）

平成 27 年度が始まり、2 ヶ月が経過しようとしている。先週には体育祭を実施し、来週からは第 2 回考査が始まる。毎朝の話であるが、通用門で登校してくる生徒を迎えている。昨年までは挨拶をしても返すことができない生徒が 1 割ほどいたが、今年度はほとんどいない。印象として学校の佇まいが非常によくなっている。遅刻数も大きく減少しており、5 月までの統計では 40%改善している。昨年度、1 年間で 11,000 回の遅刻があった。本年度は 5,000 を目標にしている。5,000 は数字的には大きく感じるが、24 クラスで 190 日の登校日があると 1 日に 1 クラス 1 人の遅刻で 4,500 となる。昨年度までは時期を区切り遅刻指導をしていたが、今年度は遅刻の回数が指導対象に達した時点で指導する方法に改めた。学校が全体的によい方向へ向かっていることをまず報告する。本日は第 1 回目の学校協議会であり、学校経営計画を中心に意見をいただきたい。

2. 委員長挨拶

本年度も遅刻数の減少など色々な取組みの成果が上がっているということであるが、この第 1 回目の学校協議会で学校経営計画について聞き、少しでも茨木工科高校がよくなるため、意見を述べさせていただく。

3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

4. 平成 27 年度の学校教育活動について協議（校長）

（1）平成 27 年度の学校経営計画について

昨年度からの変更点、改善した点について説明する。

中期的目標の 2 安全安心で魅力ある学校づくり 年間遅刻総数について、5000 以下に削減することを目標とする。以前は昨年と比較し、削減する割合を数値として示していたが、本年度からは絶対数を示すようにした。3 自立・自己実現の支援 学校紹介による就職内定率 100%を堅持するとともに、3 年後の離職率を 30%以下とする。

本年度の取組内容及び自己評価では 4 つの柱、確かな学力の育成、安全で安心で魅力ある学校づくり、自立・自己実現の支援、地域連携・地域貢献の取組の推進を本年度も挙げている。この中で本年度、付

け加えたことや、さらに重点的に取り組むことについて説明する。

確かな学力について、エ 家庭学習の習慣を身につけさせる取組を付け加えた。各教科で積極的に宿題を課すようにしている。本校の生徒にアンケートを取ったところ、「家庭での学習時間」の項目で最も多かった回答が0時間、家庭では勉強をしていないということであった。少しでも家庭学習を行うよう指導していく。

オ 授業公開の取組について変更している。自主的な授業公開。研究協議を6月及び11月に実施する。現在1年生の授業公開を実施している。公開しているクラスの教科担当が積極的に見学を行い、自分の授業と他の授業で生徒の活動がどのように違うのかなどを理解する。8クラスの公開授業が終了次第、その結果を2日に分けて研究協議、情報交換を行う。2年生についても授業公開、研究協議を行う。3年生については進路指導と時期が重なるため、授業公開のみ実施する。

保護者への授業公開時に、アンケートを実施する。これは実施済みであり、具体的にはPTA総会時の授業参観の受付でアンケート用紙を配布した。しかし、受付をせず子どもの教室へ行く保護者が続出し、結果としてアンケートをそれほど多く回収することはできなかった。回収したアンケートは肯定的な意見ばかりであった。

規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組については、遅刻指導や指導カード制の改善、徹底を挙げている。また、新たに授業規律違反カードを導入し成果を上げている。遅刻数前年度比20%削減としているが、教育委員会に提出した後、校内で検討した結果、絶対数5,000を目標とすることにした。実現することができたら20%どころではなく、50数%減となる。

行事、生徒会活動の活性化では、生徒会主催の校外清掃活動を本年度は1回行うこととした。入試の時期の変更などにより2回行うことが難しくなった。

自立・自己実現の支援では高等教育機関への進学希望生徒の支援について、工学系大学進学専科の大学連携、2年生での工学実習について具体的な取組計画・内容に記載した。

校長マネジメント推進事業中期計画推進費では平成24年から26年までの3年計画で実施しており、すでに予算措置は終了しているが人工衛星をまだ打ち上げることができておらず、引き続きこの活動を行っていく。また、新たな取組として全国工業高等学校長協会の人工衛星打ち上げプロジェクトの製作協力校9校の中に選ばれた。

地域連携・地域貢献の取組ではホームページの充実について挙げている。昨年11月に全面リニューアルを行い、アクセス数は昨年度比43%増加している。

実習公開、オープンスクールなどの延べ参加者数500名以上を目標としている。昨年度は480名の参加であった。入学者選抜学力検査は後期での実施となるため、本校の志願状況は厳しいものになると考えている。これを踏まえ、中学校訪問のあり方なども含め検討していく。

最後に、ものづくりによる地域貢献活動の取組であるが、課題研究充実への取組を挙げている。以前は各系でバラバラの日程で課題研究の発表会を行っていたが本年度は3系合同で行い、下級学年に公開する。将来的には外部公開も検討していきたいが、本年度はまず円滑に進めることを目標としている。機械系の課題研究で毎年行っている関西サイクルスポーツセンター夢の自転車PROJECTの参加について、本年度は自転車メーカーの専門家の指導を受ける機会を設けている。これについては、すでに4月23日に新家工業株式会社から講師を招き講義を行っていただいた。

以上、盛りだくさんの計画であるが、ベースは生徒に規範意識を持たせ、学校の佇まいを落ち着いたものとするのが目標である。忌憚のない意見をいただきたい。

(委員長)ただ今の計画について質問、意見などないか。

(委員)本年度の校外清掃はいつ実施するのか。

(教務主任)行事予定に示しているが10月13日火曜日としている。

(委員)JR 茨木駅から学校周辺で変更はないか。本年度も春日地区の老人会と合同で実施していただきたい。

(校長)ぜひお願いしたい。

(委員長)他にないか。

(委員長)遅刻数の目標を5000件としたことは困難ではないか。目標の根拠はどこにあるのか。

(校長)1日に1クラス1人が遅刻すると4500件程度となる。1クラス1人以下を目標としている。困難ではあるが実現に向けて取り組んでいる。

(委員長)離職率30%についても根拠を示してほしい。現在はいくらくらいなのか。

(校長)昨年度、調査を行った。結果は35%程度であった。全国的に見ると、普通科などでは40%を超えている。本校は悪くない数値である。

(委員長)調査が大変ではないか。どの組織が担うのか。

(校長)進路指導部が中心となり調査を行う。昨年は調査の依頼を郵送した。返信がなかった卒業生については電話連絡を行った。

(委員長)人工衛星を引き続き行うということだが、予算措置がなくなるのではないか。

(校長)全国の工業校長会から予算がつく予定であり、本校の予算からは捻出はしない。

(委員長)大学進学専科について定員割れが気になる。具体的な改善方法はあるのか。

(校長)入試制度の第1志望、第2志望の扱いが変更される。第1志望で不合格となり、第2志望が定員割れを起こしていなくても、その選抜の判定を受けることができるようになる。過去は大学進学専科の募集定員は40名であるので、総合募集の専科に定員割れがない限り第2志望の選抜に入ることはできなかった。この不安要素がなくなるため大学進学専科を受験する生徒が増えると考えている。

(2)平成27年年度生活指導部(生活指導主事)

遅刻数5000件を目標とした。昨年までの遅刻指導の方針は期間を設定し、遅刻の回数から指導対象者を決めていたが、1回目の遅刻指導対象者が2回目、3回目と同じことを繰り返していた。このことから指導方法を抜本的に変える必要があった。本年度は期間を設けず、遅刻の回数が指導対象となる回数になった時点で指導を行っている。すべての担任、学年主任がきめ細かな指導を行っている。このことにより雨が深い時期でも、暑くなってきても急激に遅刻数が増えることがなくなっている。また、生活指導部が遅刻通信を発行し、遅刻の少ない生徒は成績もよいなどの例を挙げて、配布時には担任から遅刻について深く指導を行っている。

違反カード制度を改善した。携帯電話の違反カードから授業規律違反カードとし、授業中に携帯電話、私語など授業に集中できなければ指導を行う。第1学年の授業公開を行ったが昨年と比べ、落ち着いて授業を受けているように感じる。

身だしなみについても、昨年と同様に夏服の肌着を白色としており混乱も少なく移行できた

(委員長)何か質問などないか。

(委員長)罰則があるから生徒は守るのか、それとも言葉でその重要性を理解させているのか。

(生活指導主事)確かに罰則があるから守る部分もあると感じるが、違反カードを発行するときに教員が生徒に違反内容を十分理解させてから発行している。

(委員長)遅刻の指導の件数が減ってきているのは、生徒と教員の関係がよくなってきたからなのか。

(生活指導主事)その通りだと考えている。遅刻の件数は毎日、生活指導部の教員が数えている。毎日、どの生徒が何回になった把握している。

(委員長)大変だと思うが目標の5000件以下を達成できるように頑張ってください。

平成27年3月卒業生(8期生)進路状況について(進路指導主事)

就職が73%、4年制大学などの進学が27%であった。4年制大学へ進学した生徒のほとんどがSクラスの生徒であり、指定校推薦や工科高校特別推薦を利用した。また、AO入試で進学を決定した生徒もいた。短大への進学はなかったが、大阪府立大学工業高等専門学校への編入学で2名の生徒が進学を決めた。また、専門学校についてはコンピュータ、理美容、高校の専門教科を生かした学校など、様々な分野に進学を決めた。就職については、学校紹介による就職活動がほとんどである。1次試験の合格率がひとつの指標になるが、昨年度は70%を超える高内定率であった。最終的には学校紹介による就職を希望していた生徒は、全て年度内に内定した。今年度の進学、就職の希望状況も例年通りの割合となっている。企業訪問も行い、手ごたえとしては昨年度並みの求人を得ることができると考えている。

(委員長)ただ今の報告に関して質問、意見はないか。

(委員長)就職希望をしていた生徒は内定率100%を達成することがということだが、就職も進学も決定しなかった生徒はいるのか。

(進路指導主事)学校紹介を希望した生徒については100%である。学校紹介の就職を希望せず、アルバイトをする生徒、専門学校を不合格となり、再度チャレンジするため浪人した生徒がいた。

(委員長)Sクラスは昨年度までの設置で本年度はないのか。

(進路指導主事)本年度について単独クラスはないがコースとして残している。来年度には大学進学専科が進学クラスとなる。

平成27年度工学系大学進学専科について(工学系長)

本年度は1,2年生の2クラスとなった。1年生は昨年と同様の授業計画、大学連携プログラムを予定している。2年生は数学や英語、理科などでより進学に向けたカリキュラムを計画している。1,2年生に対し行った意識調査の結果では、1年生は昨年の1年生と大きな意識の変化は見られない。2年生は希望する大学の項目で具体的な大学名を示すようになった。

(委員長)質問はないか。

(委員長)年次計画は3つの進学専科を設置している工科高校で連携して計画を立てているのか。

(工学系長)1年生は3校が連携して大学とともに計画を立てている。2年生以降では、ほぼ各学校で計画を立てている。本年度の2年生では本校に設置されていない建築科などを希望している生徒がおり、3校の中で設置している高校にも連絡を取っている。

(委員長)アンケート結果で気になることがある。研究開発を希望している生徒が多いが、研究開発は

大学院レベルである。生徒は大学院を意識しているのか。そうでなければ、設計・生産と研究開発の間に技術職などの項目を入れることを検討していただきたい。

(工学系長) 検討していく。

平成 27 年度行事予定について (教務主任)

代表的な行事を簡単に説明する。

本日、6月19日計算技術検定。今月末から第2回考査、入試の影響で授業日数を確保するために7月の夏休みを例年より遅く始める予定である。同様に8月の授業開始も早め、28日から全校生徒の補充授業とした。9月の1,2週目に3年生の就職指導。放課後は全教員で面接練習を行う時間を確保するため短縮授業とした。9月末から前期末考査を実施し、10月2週目で前期を終了する。昨年度とは異なり、2年生の修学旅行を前期末考査後の秋季休業中に実施する。10月13日から後期を始め、この日にクラブ校外清掃を実施する。10月17日、18日には大阪府産業教育フェアに参加する。10月24日にはオープンスクールを実施し、学校をPRする。11月7日に文化祭、21日に中学生向け実習体験を行う。12月9日から第4回考査を行い、1月29日から第3学年の学年末考査を行う。1,2年生の学年末考査は2月16日からである。一番大きな変更点として、入学者選抜学力検査の日程が変更される。本年度から後期となり、普通科高校と同じ日程、検査教科は3教科から5教科となる。以上、本年度の行事予定を報告したが、年間の行事予定であり今後変更の可能性もある。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 以上で協議を終えるが何か質問はないか。

(委員) 進学について指定校推薦の枠はどのくらいあるのか。

(校長) 工科高校推薦枠が45枠ある。昨年度の実績では工科高校全体で18枠しか推薦することができなかった。その中で本校からは6名を推薦した。本校独自の指定校推薦枠はかなりの数があるため、来年度の工学系大学進学専科の生徒のほとんどが指定校推薦を受けることはできると考えている。昨年度は景気が好調であり、大企業からの求人が多く、成績の高い生徒は就職を希望し、大学へ進学を希望した生徒は少なかった。

(委員長) 授業公開、研究協議についての具体的な方法を示してほしい。

(首席) 多くの学校で行われている研究授業は、授業担当者のスキルアップのため該当の教科の先輩や管理職などが見学を行ない、授業方法の改善点などを研究協議している。本年度の取組では、本校の課題である生徒と教員の人間関係作りを目的としている。授業公開を実施し、そのクラスで授業をしている他の教科の教員が見学を行う。これにより、教員側からは、いつも指導している生徒の他の一面を見ることができる。生徒側からは、教員が協力してクラスを指導していると感じる。研究協議では、生徒一人ひとりに対し、教科担当者が同じ方向性で指導できるように、情報を共有する。今回の授業公開では、見学した教員が生徒の発言や取組など、気づいた点を記入するための振り返りシートを作成した。この振り返りシートを学年主任がまとめ、研究授業で生徒情報を共有する。

(委員長) 入試制度が大きく変更され、学校の取組もこれから大きく変更すると考えられる。多くの志願者を得られるよう期待している。

閉会の挨拶（校長）

長時間にわたり、様々な指摘をいただき感謝する。修正、調整をしながら学校経営を行っていく。入試に関しても教職員一同、知恵を結集し取り組んでいく。

事務連絡（教頭）

平成 27 年度の学校協議会の予定、次回の協議日程であるが、10月下旬としている。出席をお願いする。